

～ 「視覚」と「触覚」でつくる「透明感」の実現 ～

## スキンケア製法の“肌どけ”パウダーファンデーションを開発

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林一俊）は、「透明感」に関するワード解析から得られた知見に基づき、高い「透明感」と「なめらかな肌触り」を併せもつパウダーファンデーションを開発しました。この研究成果を活かした商品は、3月16日発売の「雪肌精 スノー CC パウダー」から展開していきます。

### 研究の着眼点

理想的な肌状態を表現する時に用いる「透明感」という言葉は、健康的で若々しく、美しい肌を象徴する表現として、多くの女性にとって重要なキーワードの1つに挙げられます。しかし、メイク肌における「透明感」の定義は、曖昧で明確な指標はありませんでした。

そこで当社は、関西学院大学との共同研究のもと、メイク肌における「透明感」について関連ワードの解析を行いました。質感や仕上がりを表現する約2,000語の印象語から、「透明感」と関連の高いワード300語を抽出し解析を行った結果、メイク肌における「透明感」とは、「視覚」で捉える「素肌のようなナチュラルカバー」「キメが整ったような均一な質感」「水を含んだようなツヤ感」に加え、「触覚」で捉える「溶け込むような、なめらかさ」や「あと肌のすべすべ感」も、重要な要素であることが明らかになりました。

これらの結果に基づき、「視覚」だけではなく、「触覚」の面でも「透明感」が実現できるようなパウダーファンデーションの開発を行いました。

### メイク肌における「透明感」と「なめらかな肌触り」を具現化した技術

視覚的・触覚的に「透明感」を実現するパウダーファンデーションの開発には、「粉感を感じさせないこと」「薄く均一な化粧膜を形成すること」が、重要なポイントであると考えました。今回、これらを達成するために、新たに3つの技術開発を行いました。

まず、「透明感」を演出するため、「膜白さが無い」「均一性が高い」「ツヤがある」「くすみのない」粉体を開発しました。次に、粉感を感じさせず、「溶け込むようになめらか」で、「すべすべとした質感」を実現できるように、すべての粉体を柔らかく弾力のあるオイルゲルで、通常より多量かつ均一にコーティングすることができる「スキンケア製法」(図1-①)を開発しました。さらに、均一性の高い塗布膜を形成するために、ゆっくりと低圧でプレスする「ソフトタッチプレス」(図1-②)を採用することで、今までにないメイク肌における「透明感」と「なめらかな肌触り」を両立したファンデーションを実現することができました。

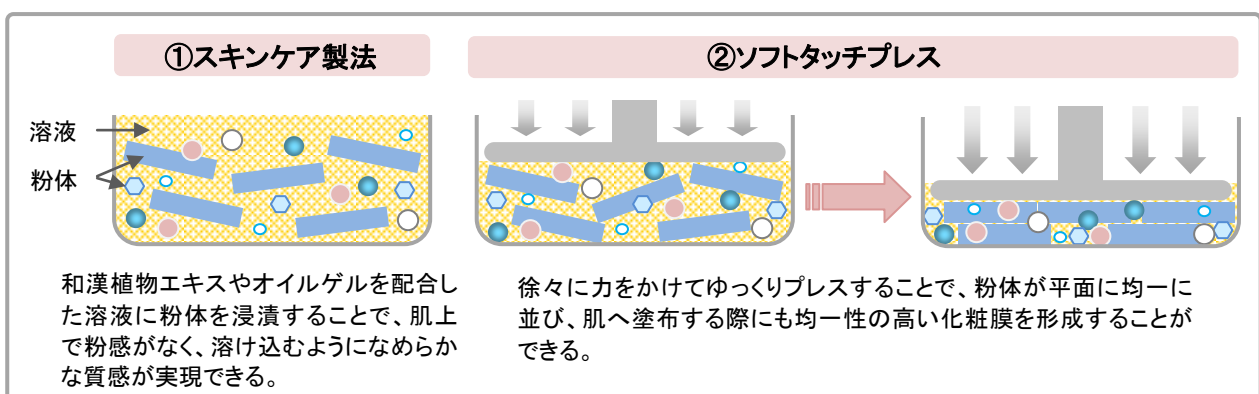


図1 「スキンケア製法」と「ソフトタッチプレス」の模式図

## 新製法によるパウダーファンデーションの特長

### ◆肌に溶け込むような“なめらかな化粧膜”を形成

今回開発したパウダーファンデーションと従来品について、肌に塗布する瞬間をハイスピードカメラで撮影し、比較しました。その結果、開発品はひと塗りで、粉感がなく均一な化粧膜に仕上がりました。(図 2)

### 〔動画〕コーセーテクノロジー公式チャンネル

\*動画中の「肌どけファンデ」は、今回の「開発品」で、「一般的なパウダーファンデーション」は、「従来品」です。



[「“肌どけ”ファンデは粉がとけこむ」](#)

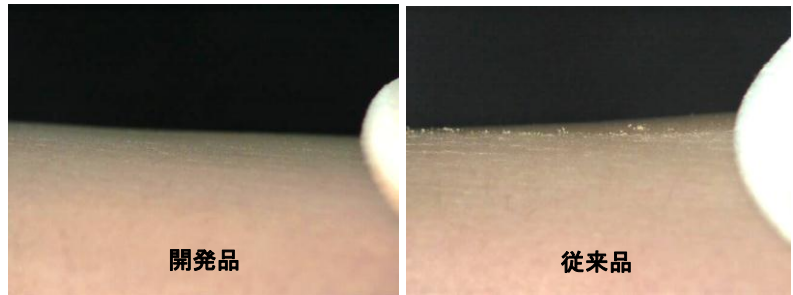


図 2 ファンデーション塗布時の比較

また、化粧膜をサンプリングし、電子顕微鏡にて膜の状態を確認したところ、従来品と比べて 1/3 程度の薄く均一な膜が実現できていることが分かりました。(図 3)

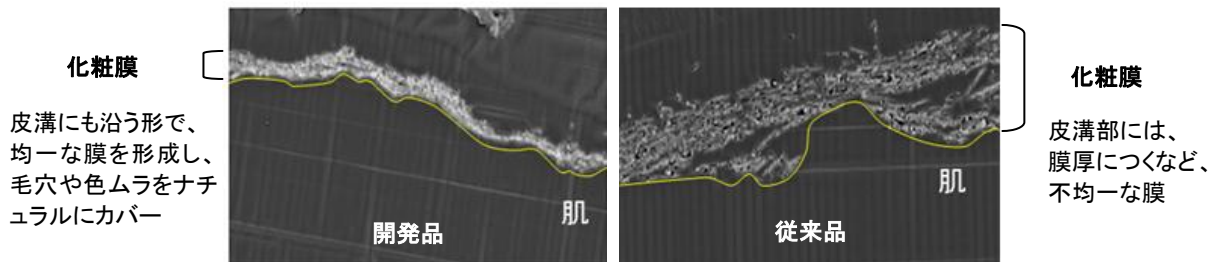
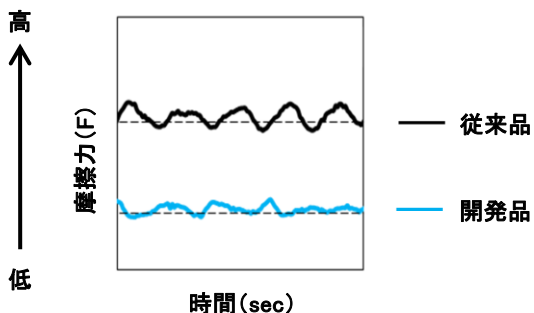


図 3 化粧膜断面の電子顕微鏡観察画像

### ◆あと肌のすべすべ感

化粧膜表面の摩擦抵抗を測定したところ、従来品と比べて摩擦力が低いことが分かりました。(図 4) この数値データから、塗布後の肌の感触もすべすべと心地良い肌触りを実現できたことが分かりました。



#### 【測定方法】

摩擦感テスターにて、人工皮革に塗布した化粧膜上を、特定の治具で一定距離移動させた際の摩擦抵抗を測定。

#### 【グラフの見方】

触った時のひっかかりが少ないほど、縦軸の摩擦力(F)は低くなり、なめらかであるほど、グラフの振幅が小さくなる。

図 4 化粧膜表面の摩擦抵抗

このニュースに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社コーセー 広報室 TEL 03-3273-1514(直通)